

研 修 だ よ り

糸 島 市 立 一 貴 山 小 学 校
平 成 2 6 年 6 月 4 日 (水)
学 力 ア ッ プ 部

6 年 1 組 の 子 ど も た ち 、 石 井 先 生 あ り が と う ご ざ い ま し た ！

【 単 元 名 】 文 章 と 対 話 し な が ら 読 み 、 自 分 の 考 え を も と う

【 教 材 文 】 「 生 き 物 は つ な が り の 中 に 」

【 本 時 目 標 】

- 単元を貫く言語活動である「筆者に手紙を書く」ことを意識しながら、教材文の要旨を捉えようとしたり、筆者の主張に対する自分の考えをもとうとしたりすることができる。
- 筆者に手紙を書くという目的意識をもち、教材文の内容を的確に押さえて要旨を捉えることができる。
- 教材文から得た情報を基にして、事実と自分の感想、意見などとを区別して書くことができる。
- 教材文の要旨や自分の考えについて交流することを通して、文や文章には色々な構成があることに気付くことができる。

【 本 時 展 開 】

- 1 前時学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。
 - 前時までの学習内容とと学習課題を振り返る。

まとめごとに要旨を読み取り、筆者の主張に対する自分の考えをまとめよう。

- 2 各段落の要旨をまとめ、生き物の特徴を読み取る。
 - (1) 4 , 5 段落を読み、筆者が述べていることをまとめる。
 - ・ 大切な所に線を引く
 - ・ 既習図を参考に考える

- (2) 読み取った要旨について交流する。
 - ・ ペア交流→全体交流
 - 生き物の特徴

4 段落 = 変化成長しながら一つの個体として時間をこえつな
がっている

5 段落 = 過去や未来の生き物たちとつながっていること

- 3 要旨を受けて、自分の考えをまとめ、交流する。
 - (1) 3 つの観点から自分の考えをまとめる。
 - (観 点 A) 実 感 と し て 理 解 で き る し 、 共 感 で き る
 - (観 点 B) 理 解 は で き る が 、 そ れ ほ ど 共 感 で き な い
 - (観 点 C) 理 解 で き い 部 分 も あ る が 、 共 感 は で き る

- (2) 考えを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。
 - ・ A B C の 観 点 毎 に 発 表 さ せ る

- 4 筆者が対比を用いた理由を交流し、本字学習のまとめをする。
 - (1) 例が挙がっていない場合について考え、教材文の効果について交流する。
 - ・ ロボットの犬が例に挙がっていなかった場合を考えさせる

- (2) 本字学習のまとめをする。
 - ・ 筆者は事例を挙げることで自分の主張をはっきりさせている。
 - ・ 手紙を書く時は、事例を挙げたり、事実と考えを区別する。
 - ・ 対比を使うことで生き物の特徴を分かりやすく伝えている



【自分の考えを書く様子】



【ペア交流の様子】



【全体交流の様子】

(石 井 先 生 の 自 評)

- 本時の目標について子どもたちは、全体的によくがんばった。
- (関 ・ 意) 「 自 分 の 考 え を も つ 」 に 対 し て 、 6 0 % の 児 童 が 経 験 に 照 ら し て 表 現 す る こ と が で き た 。
- (読 み) 段 落 の 前 半 は 事 例 で 、 後 半 が 要 点 で あ る と い う こ と に 十 分 に は 気 づ け て い な か っ た 。
- (書 く) い ろ ん な 考 え に は 気 づ い た が 、 文 章 化 す る の が 難 し か っ た 。
- 教材文等の掲示をもっと見やすくすること
- 「ロボット・犬」の例をもっと効果的に指導すること

【 協 議 会 で 話 し 合 っ た こ と 】

- (全 体 観 察 か ら) 全 体 的 に 意 欲 的 で あ っ た 。 め あ て は 、 自 分 な り に 全 員 記 述 で き て い た 。 段 落 の 要 点 の 読 み 取 り で は 、 全 員 文 章 を 読 み 取 り 、 記 述 す る こ と が で き て い た 。 自 分 の 考 え を 書 く 場 面 で は 、 4 段 落 は 2 名 、 5 段 落 は 、 1 名 書 け な か っ た 。 し か し 、 観 点 は ど の 子 も 書 い て 、 立 場 を 明 ら か に し て い た 。 ペ ア ・ 全 体 交 流 は と て も よ か っ た 。
- 自 分 の 考 え を 3 つ の 観 点 で 立 場 を 決 め さ せ る こ と は 有 効 だ 。 「 Y E S / N O 」 で は 、 中 間 の 子 が 迷 っ て し ま う こ と が で き る 。
- 自 分 の 考 え を 表 現 す る 時 、 想 像 で 書 い て い る が 、 ど の よ う な 手 立 て が 必 要 だ ろ う か ? = 友 達 と の 交 流 や 事 前 に 準 備 を し て お く (意 図 的 に 記 録 さ せ て い く) 。 す ぐ に で き な い 子 た ち へ の 支 援 は 必 要 で あ る 。
- 言 語 活 動 が と て も 活 発 で あ っ た 。 そ う な る に は 、 い ろ ん な テ ク ニ ッ ク が あ り 、 今 ま で の 積 み 重 ね が あ っ た と 思 う 。 低 学 年 か ら 高 学 年 ま で 系 統 的 な 指 導 の 重 要 性 を 学 ん だ 。
- 「 要 旨 」 は 筆 者 の 主 張 点 や 意 図 、 中 学 年 は 「 要 点 」 小 見 出 し 、 キ ー ワ ー ド 、 キ ー セ ン テ ン ス 等 言 語 を 教 師 自 身 整 理 す る こ と が 大 切 で あ る 。
- 子 ど も の プ リ ン ト に 「 確 か に 」 や 「 説 得 力 」 等 の 言 語 が 何 人 も 書 い て い た 。 大 切 に し た い 言 語 で あ る 。

【 安 河 内 友 美 指 導 主 事 の 主 な 指 導 ・ 助 言 】

- 子どもたちが自分の考えや思いを生き生きと表現していた。石井先生の学級経営のよさとこれまで育てられてきた結果である。また、立場の明示で内容が焦点化された。
- 単元を貫く言語活動に「筆者への手紙」を位置づけられ、この発想がすばらしい。手紙の内容を「①要旨を捉える②自分の考えを表現する」にすることで、毎時間も充実する。単元のはじめにゴールであるモデルの表現物を見せ、子どもがそれに向かってどう解決していくのかの学習計画を立て、進めて行くことも考えられる。
- 「要旨」とは、書き手が文章で取り上げている内容の中心、削りに削った中核のこと。「要旨を○字でまとめよう」の問いも一貴山の子ならできる。
- 単元を貫く言語活動の設定の仕方は、指導事項と教材文、子どもの実態、子どもの意欲や学び方をつなぐこと。そのつなぐことが教師の役割である。
- A と B の 考 え を 表 現 す る こ と は よ く で き て い た 。 さ ら に 、 そ れ ぞ れ の 考 え に 対 し て 意 見 交 流 す る こ と で さ ら に 広 が り 、 深 ま る だ ろ う 。
- 文章構成の工夫や効果に気づかせる場面では、筆者の意図や作戦をもっと考えさせることが大切である。(事例の順序や対比や挿絵の効果等)

学 習 ス タ イ ル を 確 立 す る こ と = 学 び 方 の 定 着

- ・ めあてを自分の言葉で書く
- ・ 音読をはっきりとした声でする
- ・ 話す人の方を向いて聞く
- ・ 呼ばれたら「はい」と返事をする
- ・ 友達につなげて発言する
- ・ 長く話することができる
- ・ 教師の指示や発問にすぐに反応することができる
- ・ ペア交流の仕方を理解している
- 等々

6 年 生 大 変 良 く で き て い て す ば ら し か っ た で す 。 研 究 の 内 容 も も ち ろ ん で す が 、 校 長 先 生 が 言 わ れ た よ う に 、 日 常 化 を 図 る こ と が 大 切 だ と 考 え ま す 。



【個別支援の様子】



【全体交流の工夫】



【授業後の板書】